

京都ものづくりバレー構想の研究と推進 (JOHNAN) 講座



京都大学

設置期間 2020年4月～2023年3月

寄附者 JOHNAN株式会社

スタートアップエコシステムの構築 ～100年続くベンチャーが生まれ育つ都を創る～



教員

教授	若林 靖永	客員教授	今庄 啓二
客員教授	泉 秀明	客員教授	竹林 一
特命教授	山本 光世	特定助教	高瀬 進
客員准教授	山川 賢記	特命講師	上野 敏寛

目的

本講座の目的は、新商品開発の試作から量産に至る製造一貫支援をグローバルレベルで提供する、京都地域開発に関する研究・教育と啓発です。本講座では、商品開発ならびに起業に焦点を当てた事業デザイン、試作を含めたプロダクト・リアライゼーション、さらにはインキュベーションとアクセラレーションを含めた「産業エコシステム」を、グローバルレベルかつ京都に相応しい形で実現すべく実践的な研究を進めます。同時に、そのような動きを先導する起業家にはどのような資質・能力が必要で、それらをいかに具備させるべきかについても実践研究していくことを狙いとしています。

講義協力

◎ 事業デザイン論

活動紹介

本講座は、2017年4月～2020年3月に実施された第1期に続く、第2期としての位置づけとなる。

● 京都ものづくりバレー研究会

第1期では、計29回の研究会を行い、常時30名程度の参加者が集まった。第2期では、「100年続くベンチャーが生まれ育つ都研究会」および「次世代HRC (Human Robot Collaboration) 生産システム研究会」の2つの研究会を各1回/月程度の頻度で開催する予定である。

<主なテーマ>

- ・第22回「イノベーションをデザインする」
- ・第23回「ロボット・モーション・プランニング技術が変える人とロボットが協働する未来」
- ・第28回「コーポレートベンチャリングとエフェクチュエーション」など

● 京都ものづくりバレーシンポジウム

第1期の総括として、2020年2月8日に「スタートアップエコシステムの構築～100年続くベンチャーが生まれ育つ都を創る～」と題してシンポジウムを開催した。時計台百周年記念ホールを会場に、山極総長の基調講演に始まり活発な意見交換が行われた。

<主な登壇者 (敬称略)>

山極壽一 (京都大学総長)、藤井輝夫 (東京大学理事・副学長)、原良憲 (京都大学経営管理大学院院長)、若林靖永 (同教授)、竹林一 (同客員教授)、松浦恭也 (同客員教授)、人羅俊実 (株式会社 FLOSFIA 代表取締役社長)、山本光世 (JOHNAN 株式会社代表取締役社長)

● 事業デザイン論

本講座は「事業デザイン論」に協力し、受講生に対して「エフェクチュエーション」や「聞きとりの作法」を教え、ビジネスプラン作成を支援した。また、「事業デザイン論」受講生を中心に京大起業部が発足した。学生のビジネス系サークルを組織化しながら、学生 (学部・大学院) ベンチャー創出に向けて活発に活動をはじめた。



研究会風景



シンポジウムで講演する山極壽一総長



事業デザイン論 講義風景